

令和6年度 事業報告

社会福祉法人富士旭出学園

令和4年度法人本部棟新築工事、令和5年度老朽化した富士清心園の創設工事、令和6年度旧施設の解体工事等すべての工事が完工し、平成30年度から7年間にわたって進めてきた法人の社会福祉充実計画は、今年度達成することができました。この計画は、利用者のサービスの質の向上、職員の職場環境の改善という社会福祉事業に充当することを目的としておりましたが、新型コロナや建築資材の高騰などの影響で、計画変更や建設規模の変更等予想外の展開の連続でした。それでも計画を達成するまでの過程では、多くの理解と協力があって成しえたことと、心から感謝申し上げます。

このように、施設整備が充実していく中で、利用者の年齢層・障害の多様化などが顕著となり、法人内の入所施設では、利用者の障害特性を考慮した生活の場の確保が急務となってまいりました。

今年度は、各施設の特徴を明確にして、個々の利用者に必要な支援と適した環境について検討してまいりました。次年度は、施設異動も視野に入れて対応していきたいと考えております。

令和6年度の主な事業については以下のとおりです。

<法人運営>

Ⅰ. 理事会開催状況

(1) 第1回 令和6年6月6日(木)

- ① 令和5年度事業報告及び附属明細書(案)の承認について
- ② 令和5年度計算書類及び附属明細書、財産目録(案)の承認について
- ③ 定款変更(案)について
- ④ 基本財産処分について
- ⑤ 預り金等取扱規程の変更(案)について
- ⑥ 役員賠償責任保険について
- ⑦ 定時評議員会の招集(案)について

報告事項 ・理事長職務の執行状況報告 ・理事長専決事項

(2) 第2回 令和6年7月30日(火)

- ① 旧富士清心園等解体及び周辺整備工事 業者選定等

(3) 第3回 令和6年11月21日(木)

- ① 富士宮市指定特定相談支援事業の変更について
- ② サポートセンターあさひで「就労移行支援事業」の廃止について
- ③ 旧富士清心園等解体及び周辺整備工事について
- ④ 令和6年度第一次補正予算(案)の承認について

報告事項 ・理事長職務の執行状況報告 ・理事長専決事項

(4) 第4回 令和7年1月17日(金)

- ① 施設長人事(案)について
- ② 理事の辞任及び理事候補者の選定について

- ③ 評議員選任・解任委員候補者の選任について
- ④ 評議員会の招集(案)について
- ⑤ 運営規程の変更(案)について
 - ・旧富士清心園等解体工事及び周辺整備工事について
 - ・サニーヒルについて

(5) 第5回 令和7年3月25日(火)

- ① 令和6年度第二次補正予算(案)について
 - ② 令和7年度事業計画(案)について
 - ③ 令和7年度当初予算(案)について
 - ④ 諸規程の変更(案)について
 - ⑤ 苦情解決第三者委員の選任について
- 報告事項・理事長職務の執行状況報告・理事長専決事項

2. 評議員会開催状況

(1) 定時評議員会 令和6年6月21日(金)

報告事項

- ・令和5年度事業報告及び附属明細書
- ・令和6年度事業計画及び当初予算
- ・役員賠償責任保険契約について
- ① 令和5年度計算書類及び財産目録(案)の承認について
- ② 定款の変更について
- ③ 基本財産処分について

(2) 第2回 決議の省略(決議があったとみなされた日 令和7年1月28日)

- ① 理事の選任について

3. 登記事項

令和6年4月9日	富士清心園建物 所有権保存・抵当権設定
令和6年6月28日	資産の総額登記
令和7年1月29日	建物表題変更登記(富士清心園取壊しにより附属建物が主の建物に変更)

4. 届出事項

令和6年4月15日	給食施設廃止届	静岡県
令和6年5月10日	障害者雇用納付金申告書	(独)高齡・障害・求職者支援機構
令和6年6月26日	令和5年度分法人税申告書(納付なし) 令和5年度分事業税申告書(納付なし)	富士税務署 静岡県沼津財務事務所
令和5年6月30日	償却資産申告書	富士宮市資産税課
令和6年9月12日	定款変更届出書(創設に伴う財産の増等)	富士宮市
令和7年3月31日	就業規則等変更届	富士労働基準監督署

令和7年3月31日	時間外労働休日労働に関する協定届 就業規則、その他関係規程の変更届	富士労働基準監督署
令和7年3月28日	女性活躍推進法 一般事業主行動計画策定届(第2期)	静岡労働局

5. 行政監査等状況

(1) 障害福祉サービス事業者等の運営指導

実 施 者 静岡県健康福祉部福祉長寿局福祉指導課
事 業 所 富士厚生園 令和6年8月1日実施
指導事項 改善指導事項なし

(2) 消防立入検査

- ① 実 施 者 富士宮市中央消防署東分署
事 業 所 グループホームサニーヒル あわくらホーム 令和6年5月29日実施
指導事項 不備事項なし
- ② 実 施 者 富士宮市西消防署
事 業 所 グループホームサニーヒル 三園平ホーム 令和7年2月25日実施
指導事項 管理事項良好
- ③ 実 施 者 富士宮市中央消防署東分
事 業 所 グループホームサニーヒル あわくらホーム 令和7年3月3日実施
指導事項 管理事項等良好

(3) 専用水道立入検査

実 施 者 富士宮市水道部水道工務課
法人本部 令和6年11月11日実施
指導事項 指摘事項なし 令和8年4月から PFOS 及び PFOA が検査項目になる
→ 令和7年2月検査し検出されなかった

6. 監事監査等の状況

令和6年4月17日	監事監査研修会(オンライン研修)監事には各自オンラインで依頼
令和6年5月25日	第52回創立記念の集い
令和6年5月31日	決算監査 令和5年度事業報告等および計算関係書類及び財産目録の監査
令和6年6月6日	理事会出席
令和6年6月21日	定時評議員会出席
令和6年7月31日	理事会出席
令和6年11月21日	理事会出席・業務監査
令和7年1月21日	理事会出席
令和7年3月25日	理事会出席

<事業活動>

1. 社会福祉充実計画の取組み

(1) 富士清心園等解体工事及び周辺整備工事完工

入 札 令和6年8月23日
 契約日 令和6年8月29日
 工 期 令和6年8月30日～令和7年3月27日
 設 計 株式会社アルファ設計
 施 工 井上建設株式会社
 総工費 主体工事費 130,900 千円 追加工事費 2,343 千円 設計監理 2,970 千円
 合計 136,213 千円

(2) 社会福祉充実計画の実績

計画期間 平成30年4月1日～令和7年3月31日

法人の社会福祉充実計画については、以下のとおり計画を実行し社会福祉充実残額を費消した。

計画内容	法人本部事務所改築 (新築)事業	富士清心園改築 (創設)事業	活用金額	社会福祉充実残額
平成30年度 1か年目	基本構想・改築計画・設計条件の設定		0 千円	179,470 千円
令和元年度 2か年目	改築工事の具体化	所轄庁との協議・改築計画の 具体化	0 千円	179,470 千円
令和2年度 3か年目	関連法令等の確認	関連法令等の確認、所轄庁と 調整・設計者選定	0 千円	244,290 千円
令和3年度 4か年目	本部事務所の建設時期変更等により計画変更		0 千円	285,080 千円
	入札(設計・施工業者)	補助金申請・国庫協議・融資 相談等		
令和4年度 5か年目	改築工事 事業の開始	工期・資金計画変更等により 計画変更	45,900 千円	239,180 千円
		R4年度補助金申請取下げ R5年度申請へ再エントリー		
令和5年度 6か年目		入札(施工業者) 改築(創設)工事 財産処分許可申請	239,180 千円	0 千円
令和6年度 7か年目		事業の開始 財産処分許可・入札 解体工事・周辺整備工事	0 千円	0 千円
			285,080 千円	0 千円

2. 地域支援の充実にに向けた取組み

(1) 地域支援に向けてサポートセンターあさひでを拠点とした体制づくり

→ 地域支援の中心となる管理者を配置

(2) 相談支援事業所ゆきわりそう開所準備

→ 指定特定相談事業所ふじあさひでの名称を変更し、地域の障害児者も対象として富士宮市に申請

(3) サポートセンターあさひでの事業の見直しに向けた取組み

→ 就労移行支援事業(定員6名)を廃止し、就労継続B型支援事業(定員20名) 一本化へ

(4) 共同生活援助事業所サニーヒルの建替えに向けた取組み

→ あわくらホーム(定員5名)、三園平ホーム(定員6名)の老朽化と耐震性が危惧される為、分散されたホームを1か所にまとめる建築計画

3. 利用者の立場に立った良質で安全・安心なサービス

(1) 給食業務委託先との連携

① 給食会議(月1回)にて利用者の健康状況・残食を把握し献立に反映

② 利用者の生活を豊かにするためお楽しみ献立を増加

③ 栄養士を配置し委託先との調整・栄養管理・嚥下調査・衛生管理・非常食管理を実施

④ 食材費高騰による価格の検討

→ 令和6年10月1日より食材料費日額858円を903円に変更

※ 利用者からの給食単価(1,495 円)は据置き

(2) 業務継続に向けた感染症、災害への対応力の取組みの強化

① 新興感染症等発生時事業継続計画

② 災害時事業継続計画

→ 非常時の職員配備体制、職員行動基準等を定めた

(3) 平時の感染症対策

① 平時の感染対策は継続し外出・外泊は緩和

② インフルエンザ予防接種、新型コロナ予防接種実施(希望者)

③ 感染症の状況

富士厚生園	コロナ R6.7.3~7.16 入所利用者 2 名
	コロナ R6.12.29~1.9 入所利用者 13 名、職員 1 名
	コロナ R7.1.27~2.6 入所利用者 20 名、短期利用者 1 名、職員 4 名
富士清心園	コロナ R6.8.31~9.7 入所利用者 1 名
富士明成園	コロナ R6.6.15~R6.6.30 入所利用者 36 名、職員 9 名
サニーヒル	コロナ R6.6.23~R6.6.28 入居利用者 1 名、世話人 1 名
	コロナ R7.3.26~R7.3.31 入居利用者 1 名

(4) Wi-Fi 型インカムシステムの活用

① 職員間で利用者の状況把握を円滑にし、職員数が限られている夜間帯等の安心安全の確保

② 情報共有を円滑にして現場全体の動きを把握しながら業務の効率化を図った

③ 3つの施設をつないだ緊急時の対応

4. 人材育成と人材確保

(1) キャリアパス制度

- ① キャリアパス基準に基づき人事評価を実施し次年度の昇給・昇格に反映
- ② 等級ごとの研修内容を提示して計画的に実施

(2) 定着支援と職場内研修の強化

- ① 入職後の職員に先輩職員を配置して日常的に指導・育成支援を実施
- ② オンライン研修サポーターズカレッジを導入し各自の研修計画に則り受講・振返りを実施

(3) 採用プロジェクトチームの発足

- ① 富士旭出学園Instagram配信開始 年間44件投稿
- ② 新卒採用面接会に参加
- ③ 採用状況

R6.4.1～R7.3.31

	求人サイト	hpから応募	ハローワーク	広告	職場実習	紹介等	定年再雇用	合計
新卒採用	1	0	0	0	3	1	0	5
中途採用	3	1	3	0	0	3	3	13

5. 地域への情報発信、地域貢献と地域交流

(1) ホームページ・Instagramによる情報発信

(2) 積極的な学生・利用者の実習受入れ

(3) 地域とのつながり

- ① 能登半島地震福祉避難所への職員派遣 令和6年5月16日～5月20日 1名派遣
- ② 富士宮市民生委員児童委員(障害児者福祉部)研修
- ③ 富士宮市教職員3年次研修等の協力
- ④ 市民後見人養成講座体験実習
- ⑤ 山宮一区文化祭の作品展示
- ⑥ 三園平地区餅つき大会・地域の防災訓練参加
- ⑦ 奇石博物館わくわく収穫感謝祭の駐車場、富士山一周フットレースの中継所として協力

(4) 防災拠点としての取組み

- ① 障害者福祉施設等の使用協定
- ② 防災倉庫の設置と備蓄食品の確保
- ③ 飲料水確保に必要な井戸ポンプの更新

6. 職員の働きやすい職場環境の実現

(1) 衛生委員会を中心とした取組み

- ① 職場巡視
- ② 職場におけるハラスメント防止
- ③ 職員の労災防止活動

④ 職員の健康管理

→ ストレスチェック、定期健康診断、二次検診、特定業務従事者健診の推進

⑤ 職場環境改善のため中央労働防止協会の管理監督者研修実施

(2) 令和7年度に向けて女性活躍推進法に基づき行動計画を策定

7. 三人行事等の実施状況

- (1) 第52回創立記念の集い 令和6年5月25日(土)
利用者とその家族・行政・近隣区長・役員等出席
職員の永年勤続表彰等
- (2) 子ども参観日 令和6年8月9日(金)
職員の子も達 22名参加
施設見学・福祉体験・修了式
- (3) 富士旭出ふれあい祭 令和6年10月25日(金)
富士清心園解体工事により中止
地域貢献活動は天候不良により中止
- (4) おもいきり交流会 令和6年11月15日(金)
天候不良により縮小して開催

8. 苦情解決委員会・第三者委員会・虐待防止委員会

令和6年7月18日	第1回苦情解決委員会 第1回虐待防止委員会 第1回身体拘束委員会
令和6年9月19日	第2回苦情解決委員会 第2回虐待防止委員会 第2回身体拘束委員会 第1回苦情解決第三者委員会 第1回虐待防止・身体拘束適正化外部委員会
令和6年12月19日	第3回苦情解決委員会 第3回虐待防止委員会 第3回身体拘束委員会
令和7年3月13日	第4回苦情解決委員会 第4回虐待防止委員会 第4回身体拘束委員会 第2回苦情解決第三者委員会 第2回虐待防止・身体拘束適正化外部委員会

9. 苦情・要望・相談受付内容(令和6年度報告)

発 生 日	申出人	内 容	対 応
令和6年3月18日 (富士清心園)	家族	3/15 に怪我の状況説明の際、後で通院結果の連絡をしようと言っていたがまだ連絡がない。どうなっているのか。	対応職員は本人の体調に変化等があった場合に連絡させて頂くと伝えたつもりだった。誤解を招く言い方で、ご家族に対して配慮ある伝え方が必要であったと謝罪し、通院結果と経過について報告した。
和6年4月18日 (富士明成園)	家族	転倒の頻度が高く、転倒に対する対策をきちんと行ってほしい。	自分で出来ることは自分で行いたいという本人の意思を尊重しつつ、障害特性を考慮しながら支援の割合を増やし、家族と情報共有し、転倒リスクについて随時検討しながら支援を行っていくこととした。

令和6年5月22日 (富士清心園)	家族 相談員	薬をきちんと飲ませてほしい。 (1泊2日短期入所利用時)	投薬ミスについて、ご家族からの苦情が相談員から寄せられた。原因究明と投薬マニュアルの見直しを行い、今後も施設を安心して利用して頂くために、ご家族にもマニュアルを見て頂き説明を行った。相談員とも平時から情報提供していくこととした。
令和6年8月1日 (富士明成園)	家族	衣類が整理されず、同室者の物が混在していた。きちんと整理してほしい。	衣類整理の管理方法を変更し、担任の管理ではなく、週案の中で衣類整理と在庫確認の職員を配置し、組織一丸となって環境を整えていく。
令和7年2月28日 (富士厚生園)	家族	お茶の提供がなく連絡帳が返却されていない理由を教えてほしい。 (通所生活介護)	担当職員からお茶と連絡帳を引継いだ職員が失念し、お茶の提供と連絡帳を渡す際には帰られた後であった。また、気づいた時点ですぐに連絡をしていなかった。ご家族に謝罪し、職員全体にマニュアルの確認と速やかな対応を周知徹底した。

10. 虐待通報状況

発生日	通報日	状況	行政機関	結果
令和6年10月29日 (富士明成園)	10月29日	体操活動中、強度行動障害の男性利用者が興奮して女性職員の頭と背中を叩いたところ、男性職員が抑え込み、床に寝かせて怒鳴った。	沼津市 本人を押さえつけたが、すぐ止めて居室での行動制限もなく、即日報告したことから虐待認定なしとする。	障害特性をよく理解して支援することを課題とし、本人が騒がしさを嫌う一方音楽に関心がある為、音楽活動への参加、隙間時間の不安解消に午前中の散歩を実施し他害行為が見られなくなった。職員の理解を深める為の勉強会など継続していく。

11. リスクマネジメント委員会・感染症対策委員会

令和6年6月17日～6月24日	感染症対策委員会5回開催 富士明成園 利用者、職員新型コロナ感染による
令和7年1月28日～1月30日	感染症対策委員会3回開催 富士厚生園 利用者、職員新型コロナ感染による

12. 事故報告内容

内 容	富士厚生園	富士清心園	富士明成園	サポートセンター あさひで	サニーヒル	法人本部
怪我(原因不明の受傷含む)	1	5	4	0	0	
所在確認(施設内・施設外)	0	0	0	0	0	
転倒・転落	15	14	26	0	0	
興奮時の怪我	0	0	0	0	0	
他害	3	5	5	0	0	

破損	1	1	0	0	0	
異食	0	0	0	0	0	
誤薬・服薬ミス・服薬忘れ	4	5	1	0	0	
所持品等の確認ミス	0	0	0	0	0	
その他(職員・外部の不注意等含む)	1	1	3	0	0	2
職員等車両事故	2	1	1	0	0	0
通勤途上事故	0	1	0	0	0	2
行政へ報告した件数	3	1	3	0	0	

13. 年間行事実績

月 日	行 事 内 容	
4月1日	辞令交付式	新任職員採用辞令 各部署主任以上と採用職員出席
4月10日	お花見	お花見弁当
4月13日	旭出グループ新任職員研修会	特別支援学校旭出学園にて開催 2年目職員3名参加
4月16日～17日	富士清心園内覧会	新築した富士清心園の内覧
4月18日～19日	富士清心園引越し	
4月25日	富士旭出学園新任職員研修会	新任職員5名参加
5月18日	天理教富士支部 環境整備	富士旭出学園構内 草刈り・清掃などの奉仕活動
5月25日	創立52周年記念式典	出席者 約350名
7月3日～7月8日	利用者胸部レントゲン	蒲原病院健診車による
7月11日	能登半島地震福祉避難所等報告会	派遣職員から能登半島地震による被害等現状報告
7月23日～7月25日	利用者健康診断	蒲原病院健診車による
7月25日	富士宮市児童民生委員全体研修	障害児者福祉部 施設見学・施設長講和
8月1日	職員バス健診	蒲原病院健診車による定期健康診断
8月9日	子ども参観日	職員の子ども達22名参加
8月15日～8月21日	富士旭出作品展	富士宮市役所玄関ホールに作品展示
8月24日	富士山山麓一周フットレース エイドステーション	小江戸大江戸トレニックワールド 約240名参加
9月2日	総合防災訓練	震度6以上の地震発生を想定し情報伝達訓練、避難誘導訓練、非常食試食
9月2日～9月20日	ストレスチェック期間	職員自身がストレス状況を検査項目に応じて検査
9月15日	敬老会	山宮一区区民館にて記念品受取
9月23日	わかふじスポーツ大会	富士厚生園フライングディスク 2名参加
9月30日	マカトン法研修会	旭出学園教育研究所 オンライン研修 11名参加
10月10日	富士宮市民生委員環境整備	
10月15日	口腔ケア研修会	職員(歯科衛生士)による適切な歯磨きの講習

10月20日	奇石博物館	わくわく収穫感謝祭 駐車場協力
10月25日	地域貢献活動の日	職員による天母山周辺のゴミ拾い 雨天中止
11月1日	社会福祉施設防災の日	土砂災害発生を想定し情報伝達訓練、非常食試食 防災倉庫清掃
11月2日～3日	山宮一区文化祭	山宮一区区民館にて作品展示
11月11日	東部地域成人施設スポーツ交歓会	富士宮市立体育館 利用者51名参加
11月15日	おもいっさり交流会	利用者・職員の交流会 「わ」をテーマ
12月5日～12月9日	愛護ギャラリー展	富士明成園金賞・富士清心園激励賞
12月9日	白系地区社会福祉協議会来園	寄付等の慰問
12月10日	介護研修会	テーマ「介護が必要な方への移乗支援について」15名参加
12月11日	富士宮地区更生保護女性会来園	寄付等の慰問
12月13日	光明学園合同研修会	テーマ「家族の思いを知る取組み」18名参加
12月16日～12月26日	富士宮市福祉作品展	富士宮市役所玄関ホールに作品展示
1月26日	富士山本宮浅間大社節分	節分祭慰問
2月7日～2月8日	第30回旭出グループ中堅職員研修会	テーマ「ダイバーシティを通して知る新たなカタチ」 富士旭出学園・休暇村富士
3月3日～3月6日	令和7年度採用職員オリエンテーション	令和7年度新卒採用職員対象

14. 合同委員会・合同会議

名 称	開 催 日	構 成 員
園長会	随時	理事長・施設長・事務長
運営協議会	月1回	理事長・施設長・事務長・課長
評価委員会	R7.2.14～3.10 4回	理事長・施設長・事務長
衛生委員会	月1回 第4月曜日	産業医・衛生管理者・衛生委員
感染症対策委員会	随時	運営協議会・衛生管理者・看護師他
労務管理コンサルティング	月1回	社会保険労務士・事務長・施設長
予算会議	R6.10.23～24 R7.2.20～21	統括会計責任者・会計責任者・出納職員
固定資産会議	R7.2.14	統括会計責任者・固定資産管理責任者 事務課長・主査・主任
採用プロジェクトチーム会議	月1回 第1木曜日	担当施設長・各部採用プロジェクト委員
創立記念祭実行委員会	随時 富士厚生園担当	当番施設実行委員長・各部署実行委員
子ども参観日実行委員会	随時 富士清心園担当	当番施設実行委員長・各部署実行委員
おもいっさり交流会実行委員会	随時 富士清心園担当	当番施設実行委員長・各部署実行委員
地域貢献活動実行委員会	随時 富士厚生園担当	当番施設実行委員長・各部署実行委員
ふじあさひで編集委員会	4月～6月 随時 7月1日発行	各部署により委員会を構成

15. 職員の状況（R6.4.1～R7.3.31）※ 嘱託職員は、定年後継続再雇用となった職員

(1) 採用・退職・有給休暇

施設名	勤務形態	採用職員	退職職員	職員合計	有給休暇取得実績
富士厚生園	正規	2	1	29(相談1)	56%
	嘱託	1	0	1	59%
	パート	2	3	5	40%
富士清心園	正規	5	3	24(相談1)	71%
	嘱託	0	1	0	10%
	パート	3	0	7	54%
富士明成園	正規	4	5	24(相談1)	77%
	嘱託	0	0	2	35%
	パート	0	2	4	79%
	派遣	0	1	1	—
サポートセンターあさひで	正規	0	0	5	75%
	パート	0	0	1	84%
グループホームサニーヒル	正規	0	0	1	59%
	パート	1	1	5	81%
相談支援事業所ふじあさひで	正規	0	0	(兼務3)	—
合 計	正規	11	9	83(兼務3)	67%
	嘱託	1	1	3	35%
	パート	6	6	22	60%
	派遣	0	0	1	—
総合計		18	16	109	67%

(2) 産前産後休業、育児休業・介護休業・傷病休暇・労働災害

施設名	産休育休	育児短時間	介護休業	傷病休暇	労働災害報告
富士厚生園	2	2	0	2	0
富士清心園	1	1	0	1	3
富士明成園	1	1	0	4	0
サポートセンターあさひで	0	0	0	0	0
グループホームサニーヒル	0	0	0	0	0
相談支援事業所ふじあさひで	0	0	0	0	0
合 計	4	4	0	7	3

<第一種社会福祉事業>

障害者支援施設 富士厚生園

利用者が「安心して安全に生活できる」ようにサービスを提供した。そのためには職員一人一人が健康でなければならず、職員が心身ともに健康に対する意識の高揚を図れるように努めた。

<施設支援>

1. 勤務体制

- (1) 利用者1.7名に対し生活支援員1名を配置(人員配置体制加算Ⅱの取得)
- (2) 早番1名(7:00~16:00)
- (3) 中番1名(10:00~19:00)
- (4) 遅番2名(12:00~21:00)
- (5) 夜勤3名(準夜勤 15:00~24:00 深夜勤0:00~9:00)

2. 定員と現員

入所利用者定員40名 現員37名

通所利用者定員20名 現員9名(契約者数)

3. 利用者状況

(1) 入所利用者

- ・ 肺炎(多臓器不全)で2名、悪性腫瘍で1名、計3名が逝去
- ・ 肺炎(機能低下)で入院1名、地域移行で1名、計2名が退所
- ・ 肺炎6名、くも膜下出血1名、悪性腫瘍1名、骨折1名、尿路感染症1名(いずれも延べ人数)が入院
- ・ 今年度は富士明成園より1名の異動があった

(2) 通所利用者

- ・ 富士宮市から2名(虐待案件)の新規利用があった

(3) その他

- ・ 高齢化等により機能低下が進み、入院が長引き施設に戻れないケースが増加している
- ・ 施設入所及び通所(生活介護)利用者の定員を充足するため、各市町(相談支援事業所含む)に相談しているが、利用希望者は重度の障害を持たれている方が大半であり、職員補充が十分にできない中でのバランスが難しい状況である
- ・ 各施設の特徴を明確化するため、利用者異動を法人全体で検討する
- ・ 来年度の富士明成園の定員変更に伴い、利用者の異動を行う

4. 生活支援員の状況

(1) 職員配置

- ・ 生活支援員29名(育児休業1名)、看護師1名を配置
- ・ 通所利用者9名(契約者数)に対しては、常時1~2名の職員を配置

- (2) 利用者の状況から、生活支援員を増員したいが求人に対する応募がなく対応に苦慮している

<個別支援計画・面会について>

利用者とその保護者との面談を下記のとおり実施

(1) 個別支援計画

- ・ 前期6・7月及び後期12月 対面で実施

(2) 面会・外出

- ・ 新型コロナが2類感染症から5類感染症になったため、基本的には通常での面会、外出を可能としている
- ・ 利用者本人、保護者の希望により、電話やオンライン面会を実施
- ・ 今後の感染症動向に注意しながら柔軟に対応する

<健康管理と感染症予防>

1. 個別支援計画に沿ったバイタルチェック(検温、血圧測定等)の実施
2. 少しの異常でも早期の通院(医療に繋げる)を実施するが、誤嚥性肺炎と診断されるケースが増えている
3. フジヤマ病院根本院長による往診により慢性疾患の利用者の通院負担が軽減された
4. インフルエンザ予防接種を令和6年11月14日に実施
5. 新型コロナワクチン接種を令和7年1月16日及び2月13日に実施
 - ・ 今年度の接種より自己負担額(65歳以上助成あり、65歳未満自費)もあり年1回の実施に変更し、希望する入所利用者(27名)のみ実施
6. 感染症(新型コロナ・インフルエンザ・ノロ)対策(定期的な換気、手指消毒等)の徹底
7. 感染症の状況により、行事の縮小と内容変更をして、3密を避ける配慮を行った
8. 職員の感染症対策徹底
 - (1) 職員には出勤退勤時の検温と寮内換気の徹底を図った
 - (2) 対面での外部研修も増えてきたが、感染症の状況に応じたオンライン研修、小集団での内部研修等を実施
 - (3) 富士厚生園の感染症対策マニュアルを再確認し、現場に即した対応の見直しを行う
9. 緊急時の応援協定
 - ・ 緊急時の食事を確保するため、株式会社大富士と災害時応援協定の継続
10. 利用者及び職員の新型コロナ感染状況
 - (1) 令和6年7月3日～16日 男性入所利用者2名の感染が確認された
 - (2) 令和6年12月29日～令和7年1月9日 女性入所利用者13名(入院1名除く全員)、職員1名の感染が確認された
 - (3) 令和7年1月27日～2月6日 男性入所利用者20名(24名中)、男性短期利用者1名、職員4名の感染が確認された
11. 感染症発生時の対応
 - (1) 感染症発症時は、感染症対策委員会を開催し他園から協力を得ながら対応した
 - (2) 今年度は、1階女性棟、2階男性棟の利用者ほぼ全員が新型コロナに感染した
 - (3) 以前のように、検査キットが購入できないことに加えインフルエンザ感染の疑いもあり、病院で検査キットを購入し通院する必要があった
 - (4) クラスター発生での通院等は難しく、フジヤマ病院の配慮に助けられ重篤化することはなかった

<職員の危機意識の高揚(健康・安全管理対策)>

1. ほうれんそう(報告・連絡・相談)の徹底
2. 整理・整頓・清潔・清掃の習慣を身に付け、施設の環境美化に努めた
3. 生活習慣に留意し体調不良の場合は、早期に通院し健康管理に努めることとし、職員検診にて異常があれば、かかりつけ医等に必ず受診しその結果を上司に報告することを徹底した
4. 衛生委員、看護師を中心として健康管理に対する意識を高めた
5. 職員とその家族から、体調不良の要因を施設に持ち込まないように徹底した
6. 衛生委員を推進役とし、朝の打ち合わせ終了後に「体操・ストレッチ」を取入れ、転倒腰痛予防対策を行った
7. ストレスチェックの実施とその結果を産業医に報告し、意見を求めた
8. インカムの使用頻度を高め、職員間の意思疎通がタイムリーに行えるよう努めた

<サービス提供者としての資質向上>

1. サービス提供者としての自覚(接遇する姿勢)を持つ
2. ゆとりある支援に努める
3. 内部研修の実践と外部研修への積極的な参加
4. 職員一人ひとりが事業所(施設)に愛着を持てるよう「帰属意識」を養った

障害者支援施設 富士清心園

創設工事により新園舎となり、利用者は全て個室での生活となった。各担当生活支援員にて、利用者の居室環境の整備(その人らしい生活空間)を行い、快適に過ごしていただけるように配慮した。同時に共有部分においても、きれいな施設をきれいなまま維持していくことを目指し、環境整備を行った。

<施設支援>

1. 勤務体制
 - (1) 利用者2名に対し生活支援員1名を配置(人員配置体制加算Ⅲの取得)
 - (2) 早番1名(7:00~16:00)
 - (3) 中番1名(10:00~19:00)
 - ・ 短期入所及び日中一時利用者に対応すべく、中番1名を設けた
 - (4) 遅番1名(12:00~21:00)
 - (5) 夜勤2名(準夜勤 15:00~24:00 深夜勤0:00~9:00)
 - (6) 常勤看護師の退職に伴い、2・3月は常勤看護職員等配置加算が取得できなかった
2. 定員と現員

入所利用者定員40名 現員38名
通所利用者定員10名 現員11名
3. 利用者状況
 - (1) 入所利用者

- ・ 令和6年度は4月に男性利用者が、5月に女性利用者がそれぞれ老衰で、7月に男性利用者が誤嚥性肺炎及び心不全で、2月に男性利用者が肺炎で計4名が逝去した
- ・ 利用者5名が尿路感染症、肺炎、重責発作、精神科の薬調整等で入院
- ・ 10月及び12月に男性各1名、計2名が入所

(2) 通所利用者

- ・ 5月及び7月に男性各1名、計2名が利用開始
- ・ 10月に女性利用者が転居のため利用終了

4. 日中活動の取組み

(1) 寮外活動グループ

- ・ 農園芸活動を通じ、自然の中で無理なく身体を動かし健康維持を図った
- ・ 収穫したものは食事やおやつに利用し、利用者に喜んでもらった
- ・ よもぎ活動については静岡県畜産技術研究所の敷地にて2回収穫を行い、よもぎ入浴剤として朝霧高原道の駅にて販売
- ・ 創設工事に伴い、よもぎ乾燥用として使用していた大型乾燥機を撤去し、新たに小型乾燥機を購入したが乾燥が追いつかず生産が減少したことから、新たな活動内容を模索する
- ・ 環境整備として、園内外の草刈りや植込みの剪定、プランターで草花を育て楽しんだ

(2) 寮内活動グループ

- ・ 通所利用者及び高齢利用者と屋外活動が困難な利用者を対象に、体力・健康・身体機能維持・作業を目的として、個々に合った課題を設定し活動を展開した

(3) 通所グループ

- ・ 通所利用者を対象として、体力維持のための体操・歩行を行った
- ・ 個々に合った課題を設定し活動を展開した
- ・ 自閉傾向のある利用者に対し、刺激の少ない活動場所を提供するためパーテーションを利用し落ち着いた空間づくりを行った

5. 文化活動

(1) 茶道（年7回 講師：塩谷光宏氏、塩谷順子氏、長谷川はるひ氏）

- ・ 外部講師を招き、参加利用者の状況に合わせた活動内容とした

(2) 陶芸（年8回 講師：小割祥嗣氏）

- ・ 富士明成園で行われている三園合同の活動に5名参加し、完成した共同作品は愛護ギャラリー展で発表した

(3) 書道（年4回）

- ・ 実施月によりテーマを提示し、利用者の感性にて自由に表現した
- ・ 作品は生活支援員が工夫してデコレートし廊下に展示、作品展にて発表した

(4) 音楽（年9回）

- ・ 行事での発表を目標とし、動画配信を中心に少ない生活支援員数でも実施できるよう環境を整えた

(5) 絵画、貼り絵

- ・ 愛護ギャラリー展や富士宮市福祉作品展での発表を目指して取組んだ
- ・ 山宮1区の文化祭に作品を展示した

6. 余暇活動

(1) DVD鑑賞会

- ・ プロジェクターや2階談話室のテレビを活用して実施
- ・ 利用者が好きな映画やアニメを上映

(2) カラオケ

- ・ 歌うことが好きな利用者を対象に実施し、外出しなくても寮内で楽しめるものとして、利用者の楽しみとなっている

(3) 外出

- ・ 大型バスでの旅行会を2回に分けて実施（伊豆・山梨）
- ・ 希望外出として、食事外出と買物外出を実施

(4) 季節行事

- ・ 前期は小グループに分かれてゲーム大会、後期は新年会を行い季節に合った趣向を凝らし利用者が楽しめるように工夫した
- ・ 出張買い物として、施設内に出張販売店「ふくまる」を依頼し、外出での買物が困難な利用者を中心に、買い物を行った

<健康管理>

感染症対策

(1) 昨年度に引き続き、感染症対策を徹底した

- ・ 定時の換気、消毒を行い感染症への配慮を行った
- ・ 利用者発熱時には、即感染症対応を行うことが定例となった
- ・ 令和6年8月31日から9月7日にかけて男性利用者1名が新型コロナに感染した
- ・ 新園舎となり、入所利用者と通所利用者の混在がなくなったこと、完全個室化・居室内換気扇整備等の工夫が感染症蔓延防止の一助となった
- ・ 11月にインフルエンザ予防接種を実施した

(2) 日常の健康管理

- ・ 早期発見、早期通院を心掛け、毎日の健康チェックを継続して行った
- ・ フジヤマ病院の協力の下、継続的な診療を必要とする利用者に対して往診を行った
- ・ リハビリが必要な利用者に関しても往診にて実施した

<サービスの質の向上>

1. 個別支援計画

- (1) 個別支援計画作成、モニタリング、個別面談を通して支援内容の共有、改善を行った
- (2) 前期・後期面談とも感染症への配慮を行いながら対面で行った

2. 動画配信研修（サポーターズカレッジ）

- (1) 生活支援員の専門知識や支援技術の向上を図るため、動画配信研修（サポーターズカレッジ）を継続して行った
- (2) 職位に応じた研修計画を立て、短時間かつ自由な時間で受講できるため月3回受講し報告書を提出、新

任職員には別途新任用の計画を立て実施した

3. 外部研修として職位・経験に合わせた研修参加を積極的に行った
4. 歯科衛生士の有資格者（生活支援員）が講師となり、法人各施設の職員を対象に口腔ケア研修を行い、利用者及び職員自身へのケア方法や正しい磨き方等を学ぶ機会とした
5. インカムを使用し、緊急時の対応と情報の周知を図ったが、電波が途切れてしまう場所がある、故障しやすい等の課題も見られた
6. 『きれいな施設をきれいなままで』の精神を持ち、清掃専門支援員を配置するとともに職員による定時の清掃の実施・定期的な環境整備を行い、環境美化に努めた
7. 送迎職員と添乗職員の2名体制で通所利用者送迎を行い、安全な送迎を確保した

<リスクマネジメント>

1. 夜勤者による業務報告時に、インシデントリポート（事故に繋がりがねない事象の報告）を行うことで事故発生の予防に努めたが、3件の労災が発生した
 - （1）令和6年6月 女性生活支援員が利用者の自傷（壁への頭突き）を制止しようとして指を挟まれた
 - （2）令和6年11月 女性生活支援員が利用者の自傷による鼻出血の対応時利用者に噛まれた
 - （3）令和6年12月 男性生活支援員が夜勤中、椅子からの立ち上り時に左足肉離れ
2. 新園舎となり、危機管理上整備が不十分な箇所の洗い出しを行い、家具や電化製品等の転倒防止策を講じ、利用者及び職員の安全確保に努めた
3. 朝の打合せ終了後に腰痛予防体操を行い、予防と意識の向上を図った
4. ストレスチェックを実施し、メンタルヘルス不調のリスク軽減に努めた

障害者支援施設 富士明成園

<施設支援>

1. 勤務体制
 - （1）利用者2名に対し生活支援員1名を配置（人員配置体制加算Ⅲの取得）
 - （2）早番1名（7:00～16:00）
 - （3）遅番2名（12:00～21:00）
 - （4）夜勤3名（準夜勤 15:00～24:00 深夜勤0:00～9:00）
 - ・ サービスの質の向上を図るため、職員の更なる確保が必要
 - ・ 職員間で連携し、勤務者間で情報を共有して利用者支援を行った
 - ・ 利用者の不調が確認された場合、早期対応を心掛け、緊急時の対応を周知した
2. 定員と現員
入所利用者現員50名 現員43名
3. 利用者状況
 - （1）入所利用者
 - ・ 入所利用者1名（他の障害者支援施設より）

- ・ 退所利用者2名 誤嚥性肺炎を繰り返し、経口摂取ができず中心静脈栄養（点滴）のみの栄養摂取となり、施設での生活が難しくなり1名、逝去による退所1名
- ・ 肺炎3名、骨折2名（大腿骨・足指）、尿路感染症1名、口腔外科1名、脱水による血中濃度上昇1名、食事拒否による栄養低下1名で利用者8名（延べ9名）が入院
- ・ 入院に至らなかったが、骨折・転倒による切傷、義歯の飲み込みで通院治療を必要とするケースもあった

4. 日中活動

（1）療育グループ

- ・ 重複障害・強度行動障害の利用者への体力づくり・個別活動により、利用者が落ち着いて取り組めるメニューを提供した
- ・ 壮年期を迎えた利用者については健康面のケアが重要で、青年期の方については情緒の安定を図るためのケアが重要であるためグループ内での活動のバランスのとり方が課題

（2）生き活きグループ

- ・ 身体麻痺のある利用者へのリハビリ支援（個別メニューの継続）高齢者中心に楽しめる体操、個別活動を実施
- ・ フジヤマ病院の理学療法士が定期的に訪れることが可能となり定期評価を実施
- ・ 個々の適したメニューについて見直しができ、週案に定期的な個別リハビリを行う機会を確保した
- ・ 午後のゆとり活動については、場所を限定せずに居室・談話コーナー・多目的ホールなど手作業等利用者が選択できるよう配慮し、楽しみや達成感を感じられるように努めた

（3）自活グループ

- ・ 身体や脳を動かすことを心がけ心身の活性化を目指し、動画を活用した体操や運動、歩行を取入れた

（4）その他活動

① 陶芸活動（毎月第三木曜日 講師：小割祥嗣氏）

- ・ 利用者10名が参加し、土に触れる楽しさと作品を仕上げる喜びを体感した
- ・ 個々の作品については、球・棒・皿状のものをそれぞれの感性で組み合わせて作品作りを行った
- ・ 愛護ギャラリー展に共同作品を出展した
- ・ 長年講師を務めていただいた小割氏から退任の申し出があった

② 音感療法（毎週火曜日 講師：梶田真弓氏）

- ・ 利用者20名が参加し、音感療法の考えを基に問題となっている行動の軽減等利用者それぞれの目的を明確にして実施
- ・ 北棟、女子棟、南棟へと講師が場所を移動して行う寮内音感を継続し、内容の充実を図った
- ・ コミュニケーションが難しい利用者の音楽的感覚を養った
- ・ みんなで歌おう会（月1回）に20～30名参加
- ・ 令和7年3月18日に音感療法で取り組んだ内容の発表と歌おう会を実施

③ 園芸活動

- ・ 寮内に野花や季節の花、植物の写真を談話コーナーに飾り、寮内に彩りが出せるように努めたことで、季節を伝えたり、花の名前を知ったりなど利用者とのコミュニケーションを増やすことができた

<健康管理>

1. 通院状況

- (1) フジヤマ病院根本院長の往診により、通院件数の減少につながった
 - (2) フジヤマ病院から処方される薬については、富士宮薬局との連携により分包済みの処方薬の受取が可能となり、看護師による分包が軽減された
 - (3) 歯科通院が困難な利用者の増加のため、訪問歯科の利用を開始し口腔衛生面での改善が期待できる
2. 不調の訴えのできない利用者が多くいるため、バイタルチェック（検温、血圧測定等）を行い、普段と違う状況に気づいた場合は、医療機関への早期受診を行った

3. 感染症対策

- (1) インフルエンザ予防接種を令和6年11月7日に実施、利用者の発症はなかった
- (2) 新型コロナウイルス対策について、8回目のワクチン接種を令和7年1月9日に学園にて行った
- (3) 昨年度より引続き感染症対策に努めてきていたが、令和6年6月15日より新型コロナ感染症を利用者が発症したが、重篤化せずに済んだ
- (4) 熱発者が出た場合、北棟、南棟及び女子棟の行き来を制限し、感染症拡大防止に努めた

<サービスの質の向上>

1. 虐待防止への取り組み

- (1) 令和6年10月29日に興奮する利用者を落ち着かせようとして、職員の不適切な行為が確認された
 - ・ 事務長・他施設長にカメラの映像を確認してもらい、沼津市障がい者基幹相談センターに報告を行った
 - ・ 沼津市からは、怪我もなく長時間の拘束がなかったこと、速やかな通報であったことから虐待の認定なしとの返答があった
 - ・ 令和6年12月19日虐待防止委員会にて報告
 - ・ 令和7年3月13日虐待防止委員会にて外部委員への報告
 - ・ 再発防止改善計画を再確認し、虐待案件が発生しないよう職員の意識を高める
 - ◎ 業務体制に関する改善点 業務体制の見直し、業務マニュアルの修正
 - ◎ 職員資質向上に向けた取り組み 知的障害への理解の方法、接遇への取り組み
 - ◎ 環境改善に向けた取り組み 職員が孤立しない環境づくりの構築、改善ポイントの整理
 - ◎ 虐待防止に向けた定期的なチェック体制の継続 年4回のチェックリストを継続

(2) 職員の資質向上委員会における取り組み

- ・ 月間目標をより具体的な内容に変更、月間目標に関するアンケートを実施し、振り返りを行った

(3) 内部研修の実施

- ・ サポーターズカレッジを継続し、年間を通じて Web 研修を受講した
- ・ 救急対応訓練を実施、AED と心肺蘇生訓練用人形を使用し訓練を行った
- ・ 実際に起きた事例をもとに「こんな時どうする?」といった意見交換を行った
- ・ 強度行動障害について、強度行動障害を有する利用者への理解を目的にケース検討を実施

(4) 生活向上委員会による寮内清掃や消毒の実施

(5) 利用者・保護者満足委員会において、行事ごとに利用者アンケートを実施し、意見や感想を確認した

- ・ アンケートで得た情報を生かして利用者が楽しみにしてくれる行事を計画できるよう努めた

<施設整備>

1. 新型コロナウイルス感染症対策に必要な物品の購入
2. 必要な介護用品を購入し、利用者の生活の拡充を図った

<第二種社会福祉事業>

障害福祉サービス事業

就労支援事業所 サポートセンターあさひで

利用者の「働きたい」という願いを一人ひとりに焦点を当て、体験や経験の機会を提供する中で関連機関との連携を図り、安定した就労（一般就労・福祉的就労）の実現に取り組んだ。

1. 就労移行支援 定員6名 現員1名

(1) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	39	39	36	38	38	38	39	38	34	19	16	19	393

- ・ 利用延べ人数 393名
- ・ 収入額 合計 287,820 円

(2) 利用者の適性に合わせた個別支援計画の作成

- ・ 利用者の基本的な適性を図るために事業所内で下請け作業を行い、出勤状況、適性や課題の把握等基礎的な訓練を実施したうえで、企業見学・職場実習を実施
- ・ 一般就労の実現

(3) フォローアップの強化

- ・ 仕事を終了した後や休日に日中一時支援の利用を可能とし、本人の状況把握や相談等を実施

(4) 就労移行支援の事業廃止

- ・ 特別支援学校から就労移行支援を経ずに直接就職する流れが主流になっていることから、就労移行支援の利用者が減少している
- ・ 職員配置と就職までの労力等、運営的にも難しいため就労移行支援については令和6年度をもって廃止し、令和7年度より就労継続支援B型に一本化する

2. 就労継続支援 B 型 定員14名 現員16名

(1) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	328	337	323	329	321	302	326	324	325	329	282	310	3,836

- ・ 利用延べ人数 3,836名
- ・ 収入額 合計 5,390,736 円

(2) 安定した生産活動の機会を提供するため、施設外就労と下請作業の支援を実施した

① 施設外就労

- ・ 法人からの受注：屋外トイレ清掃、芝生広場の管理、自動販売機清掃等
- ・ サンファーム富士山：アメーラトマト栽培用ビニールハウスの片付け作業
- ・ 羅松園：盆栽の苔・雑草取り、盆栽の植替え準備等を実施

② 下請作業

- ・ 企業5社から通年で請負作業を確保できた

③ 自主生産

- ・ 蜜蝋ロウソクの販売：企業からの注文はないが、法人の行事などでロウソク作り体験を行い、作ったロウソクは記念にお持ちいただいたり、施設見学に来られた方に差し上げたりしている
⇒ 今後はイベント等での販路を開拓したい
- ・ 雑巾：昨今の物価高騰による原材料の高騰と需要の減少のため、他の自主製品を検討
- ・ 古紙及びアルミ缶回収：法人敷地内に回収ボックスを設置し、定期回収場所の拡充を継続、企業かの古紙回収量も安定
⇒ 富士宮市古紙等リサイクル活動団体に登録し、奨励金の交付を受ける

(3) 令和6年度 平均工賃額 20,993 円 (前年度 22,727 円)

3. 就労状況

人 数	就 職 先	就 職 年 月
1名	株式会社富士セラミックス	令和6年12月

4. 内職(施設外就労含む)取引先

サービス区分	企業名	作業内容
下請作業	富士大洋株式会社	クラフト箱折り
	富士宮通運株式会社	化粧品箱折り
	サヌキ印刷株式会社 静岡支店 富士工場	箱折り(菓子、蒲鉾等)各種
	富士宮ターポリン工業所	緩衝材(紙)の折りと結束
	株式会社フジマクロ	古紙・アルミ缶回収
	コアレックス信栄株式会社	古紙(古紙回収ボックス)
	アイパックスイケタニ株式会社 西富士事業所	菓子箱折り
	アイパックスイケタニ株式会社 山宮事業所	車部品の緩衝材・古紙回収
	社会福祉法人富士旭出学園	茶パック
施設外就労	社会福祉法人富士旭出学園	芝生広場の管理、各種清掃業務
その他	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社・ 東海ビバレッジ株式会社	法人内自動販売機清掃・消毒管理

5. 関係機関との連携

ハローワーク・関係機関・企業等との連携に努め、特別支援学校や特別支援学級からの実習生を積極的に受入れ、卒業後の進路先としても受入れを行った

6. 地域との関わり

事業所を地域福祉資源としてとらえ、利用方法等について検討し、事業所についての説明会は随時対応し、事業所を理解してもらうように努めた

7. 防犯体制・防火体制の確立

- ① 総合警備保障株式会社による防犯体制
- ② プロパンガス発電機を定期的に点検

8. 個々の利用者のニーズに対応した支援

(1) 文化活動（絵画・創作等）

愛護ギャラリー展、富士宮市福祉作品展、富士旭出学園作品展等へ出展

(2) 健康管理

- ① 感染症予防マニュアルに則った、手洗い・うがいの習慣を励行
- ② 在宅要介護者歯科保健支援プログラム
富士宮市保健センターにて前期令和6年7月30日、後期令和7年1月22日実施
- ③ 希望者へのインフルエンザ予防接種を実施

共同生活援助事業所 サニーヒル

老朽化し耐震性が懸念される両グループホームについて、1拠点に統合する移転建替計画を推進する。

1. 利用者の状況

- (1) あわくらホーム 定員:男性6名 現員:5名（一般就労2名 福祉的就労3名）
- (2) 三園平ホーム 定員:女性5名 現員:5名（一般就労1名 福祉的就労4名）

2. 支援の状況

(1) 生活支援員の配置

- ・ 生活支援員を配置することにより、日々利用者や世話人と対面することができ、問題の早期発見、早期解決ができた
- ・ 生活支援員の勤務体制に、当直・早番・遅番を取入れることにより、夜間の利用者の状況を把握し、個別支援計画に反映することができた
- ・ 通院、食事注文、小遣い管理、帰省把握、相談事業所との連絡の業務を、生活支援員が担うことにより、急遽の変更に対応し迅速に対応を行うことができた

(2) あわくらホーム

- ・ 世話人 3名で交代勤務（2月に世話人1名退職）
- ・ 勤務時間 6:30～9:30、16:00～19:00（1日の支援時間:6時間）

(3) 三園平ホーム

- ・ 世話人 3 名で交代勤務(2月に世話人1名契約)
- ・ 勤務時間 6:30~9:30、16:00~19:00(1日の支援時間:6時間)

(4) WEB 巡回

- ・ 毎日、本体施設生活支援員が交代で WEB による巡回(利用者の所在確認、日々の報告等)を実施

(5) 利用者の健康への配慮

- ・ 朝、夕の食材を業務委託し、栄養管理、食事量の配慮を業者と調整しながら行い、食費に見合う食事内容を検討している
- ・ 健康チェック(血圧・体温測定)、服薬支援を行い、利用者の健康管理に努めた
- ・ 感染症の流行に伴い、外出外泊の自粛を行い行動範囲の制限など、利用者の協力のもと理解を得ながら実施した

(6) その他

- ・ 各ホームで非常食及び衛生用品の補充を行った
- ・ 緊急時への備えとして、法人・施設の連絡先を各ホームへ掲示している
- ・ 災害時及び緊急時に備え、総合警備保障㈱との契約を継続

(7) 利用者の交流

- ・ 利用者の要望により、両グループホームでプチ旅行会(ミルクランド、奇石博物館)やドライブ外出(水ヶ塚公園)を実施

障害者短期入所事業

居宅においてその介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間入所を必要とする障害者に対し入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上の支援を実施した。

1. 富士厚生園 定員5名

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	39	38	30	47	13	36	39	69	65	68	54	50	548

② 利用のべ人数合計 548名(昨年度279名)

③ 収入額 市町合計 4,156,664 円 利用者合計 599,526 円

2. 富士清心園 定員5名

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	27	32	47	45	63	56	14	41	40	37	37	31	470

② 利用のべ人数合計 470名(昨年度310名)

③ 収入額 市町合計 3,801,302 円 利用者合計 382,935 円

3. 富士明成園 定員6名

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	10	0	0	2	2	1	6	2	1	8	3	0	35

② 利用のべ人数合計 35名(昨年度42名)

③ 収入額 市町合計 402,042 円 利用者合計 35,350 円

指定計画相談支援事業

指定特定相談事業所 ふじあさひで

現在行っている相談事業を拡大し、令和7年度より、富士宮市の相談支援専門員不足と地域の諸問題に対応し、貢献できる拠点として従来の業務に加え地域の障害児(者)を対象とする相談窓口を開設、併せて「ふじあさひで」を名称変更し、相談支援事業所「ゆきわりそう」を立ちあげる。

1. サービス利用支援

(1) 障害福祉サービスの申請に係る障害者の心身の状況、環境、サービス利用に関する意向その他の事情を勘案し、利用する障害福祉サービスの種類及び内容を記載した「サービス等利用計画(案)」を作成→支給決定後に、支給決定に係るサービスの種類及び内容、担当者等を記載した「サービス等利用計画」を作成

(2) 計画作成実績

提供年月	支給市町村及び件数	計
令和6年 6月	小田原市1件	1
7月	富士宮市11件	11
8月	富士宮市1件	1
9月	富士宮市1件	1
10月	富士宮市1件 富士市1件	2
11月	富士宮市1件 富士市2件	3
令和7年1月	小山町1件	1
3月	富士宮市1件 沼津市1件	2

提供件数合計 22件

2. 継続サービス利用支援

(1) 支給決定の有効期間内において、当該者に係るサービス等利用計画が適当であるかどうか、指定された期間ごとに、「サービス等利用計画」の評価(モニタリング)を行った

(2) モニタリング実績

提供年月	支給市町村及び件数	計
令和6年 4月	富士宮市2件 富士市3件 静岡市7件 葉山町1件	13
5月	富士宮市1件 富士市1件 沼津市5件 鎌倉市1件 寒川町1件 板橋区2件	11
6月	富士宮市55件 沼津市1件 伊東市2件 伊豆市2件 小山町1件	61
7月	世田谷区1件	1
8月	沼津市1件 三島市1件 焼津市1件	3
9月	富士宮市1件 富士市12件 牧之原市1件 品川区1件 練馬区2件	17
10月	富士市1件 静岡市7件 葉山町1件	9
11月	富士宮市1件 沼津市5件 寒川町1件 小田原市1件 板橋区2件	10
12月	富士宮市65件 沼津市1件 伊東市2件 伊豆市2件	70
令和7年 1月	富士宮市1件 世田谷区1件	2
2月	富士宮市1件 三島市1件 焼津市1件	3
3月	富士市12件 牧之原市1件 練馬区2件	15

提供件数合計 215件

<公 益 事 業>

地域生活支援事業

日中一時支援事業

日中における活動の場を確保し障害児(者)の家族の就労支援並びに一時的な休息を目的として支援を実施した。

1. 富士厚生園 定員3名

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	19	20	22	19	20	19	19	17	20	18	18	21	232

② 収入額 市町合計 842,400 円 利用者合計 2,280 円

2. 富士清心園 定員3名

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	30	35	39	41	46	53	69	63	52	49	37	26	540

② 収入額 市町合計 2,439,000 円 利用者合計 257,175 円

3. 富士明成園 定員6名

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	3	10	7	9	7	11	8	8	6	6	5	8	88

② 収入額 市町合計 630,000 円 利用者合計 50,386 円

4. サポートセンターあさひで 定員5名

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
のべ 利用	15	15	13	15	12	14	12	9	12	6	9	11	143

② 収入額 市町合計 279,000 円 利用者合計 0円